

## ● 製品概要

ソケット：E26タイプ

種類	組合せ形式	ランプホルダ	吊 具	適合セード	適合ランプ
直付灯	O26-002P	O26-0	F002P	SAW103 SAN101	H(F)40~100(X) HR(F)100N(X) BH(F)160W BHRF160W(H) M(F)100LSH RF(S)90~180WH RF(S)90~270W
自在天井灯	Y26-002P		F002P, FY10		
チェーン吊灯	O26-452C		F452C		
パイプ吊灯	O26-452P(152P)		F452P(F152P)		
自在パイプ吊灯	Y26-452P(152P)		F452P(F152P), FY10		
パイプ吊灯 (玉入りフランジ付)	O26-451(2)PR * 1		F451(2)PR		
自在パイプ吊灯 (玉入りフランジ付)	Y26-451(2)PR * 1		F451(2)PR, FY10		
ブラケット灯	O26-242B		F242B		
自在ブラケット灯	Y26-242B		F242B, FY10		
懸垂灯	O26-K1 * 3		-		

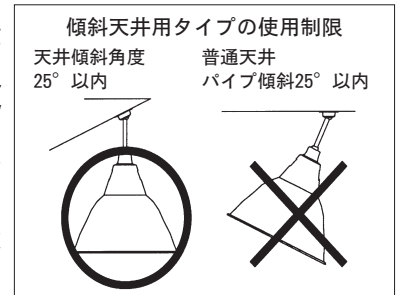
ソケット：E39タイプ

種類	組合せ形式	ランプホルダ	吊 具	適合セード	適合ランプ
直付灯	O39-002P * 2	O39-0	F002P	SAN412 SAM412 SAW413 SAW413Z SAN712 SAW712 SAW712Z SAH811 * 4 * 9	H(F)200~1000(X) HR(F)200~1000N(X) BH(F)300~750W * 5 BHR(F)300~750W(H) * 5 M250・400FCE-W/BUD * 6 M(F)250・400LSH2/BUP M(F)300LSH/BUP M(F)700・1000LS * 7 M(F)1000B/BU(H)-(UVC) * 7 NH(R)110~940(F)LS * 8 RF(S)270~900WH
自在天井灯	Y39-002P		F002P, FY10		
チェーン吊灯	O39-452C		F452C		
パイプ吊灯	O39-452P(152P)		F452P(F152P)		
自在パイプ吊灯	Y39-452P(152P)		F452P(F152P), FY10		
パイプ吊灯 (玉入りフランジ付)	O39-451(2)PR * 1		F451(2)PR		
自在パイプ吊灯 (玉入りフランジ付)	Y39-451(2)PR * 1		F451(2)PR, FY10		
ブラケット灯	O39-242B		F242B		
自在ブラケット灯	Y39-242B		F242B, FY10		
懸垂灯	O39-K1 * 3		-		

●適合ランプについて…器具には上記のランプが適合しますが、ご使用の際は別途手配の安定器に適合するものをお選びください。  
(I W A S A K I のランプをご使用ください。)

- \* 1 : 傾斜天井用タイプです。(普通天井での角度調節用としては使用できません。図を参照ください)
- \* 2 : O39-002Pの適合ランプは500Wまでです。660~1000Wの光源でボックス等に取付ける場合は、O39-152Pを使用してください。但し、電(手)動昇降装置と組合せる場合は、1000Wの光源まで使用できます。
- \* 3 : 懸垂灯で風圧の影響を受ける可能性のある場所でご使用の際、キャップ(O39-0:PK440~PK700, O26-0:PK26)をご使用ください。
- \* 4 : チェーン吊具(F452C)は使用できません。
- \* 5 : セルフバラスト水銀ランプでガラスプロテクターをご使用になる場合には、200V級でご使用ください。
- \* 6 : セラルクスは弊社のランプと安定器をご使用ください。
- \* 7 : 万一のガラス球破損に備えて必ず前面にガラスプロテクタ、もしくはネットプロテクタを取付けてご使用ください。
- \* 8 : 高圧ナトリウムランプは振動・衝撃が加わる場所では使用しないでください。
- \* 9 : セード:SAW414は、取付できません。

●器具の配線工事は必ず工事店、電器店(有資格者)などに依頼してください。  
一般の人の配線工事は法律的に禁止されています。



施工説明

施工者様へ この取扱説明書は、ご使用になるお客様に必ずお渡しください。

安全上のご注意

### ⚠ 警 告

- 施工は、取扱説明書に従って正しくおこなってください。施工に不備があると、火災・感電、また落下によるケガのおそれがあります。
- この器具は一般屋内用です。屋外や風雨にさらされる屋側、水の浸る所、湿度の高い所では使用できません。浸水による火災・感電、また落下のおそれがあります。
- 周囲温度が35℃以上の場所では使用しないでください。火災の原因になることがあります。
- 振動や衝撃の激しい所、走行クレーン、腐食性ガス・可燃性ガスの生じる所、粉塵の多い所、強い風の吹き抜ける所では使用しないでください。火災・感電、また落下のおそれがあります。
- 器具の取付は、器具重量に耐える場所に確実に取付けてください。落下、感電、火災の原因となります。
- フランジは必ず水平面に取付けてください。(玉入りフランジ付、ブラケット灯、懸垂灯を除く)パイプの破損による落下のおそれがあります。
- 傾斜天井で使用可能な器具は\*1(組合せ形式:末尾PRタイプの玉入りフランジ付)です。使用可能範囲は、天井傾斜角度25°以内です。また、普通天井での角度調節用としては使用できません。(図を参照ください)\*1以外の器具の傾斜天井への取付けは、落下の原因になることがあります。
- 安定器別置形です。使用するランプ・電圧・周波数を確認の上、適正なものをご使用ください。定格電圧±6%以外の電圧で使用しないでください。ランプの破裂・火災のおそれがあります。
- ランプは器具・安定器との適合と、ランプの使用制限を確認の上、ご使用ください。ランプの破裂・感電・火災のおそれがあります。
- 電源接続は取扱説明書に従って正しくおこなってください。接触不良により感電、焼損の原因となります。
- アース工事は電気設備技術基準に従い確実におこなってください。HIDランプ、200V級の白熱電球はアース工事が必要です。不完全なアース工事は感電の原因となります。
- 器具の持ち運びや取付工事の際、口出線に張力を加えないでください。口出線の損傷による火災・感電のおそれがあります。
- 器具を布や紙など燃えやすいもので覆ったり、かぶせたりしないでください。火災の原因となります。
- 器具のすき間や放熱穴に金属類や可燃物を差し込まないでください。火災・感電の原因となります。
- 器具は点灯中高温となり、触れると火傷のおそれがあるため人が容易に触れるおそれのない所で使用してください。
- ランプ交換や保守点検の際は、電源を切ってください。感電の原因となります。
- 煙、臭いなど異常を感じたらすぐに電源を切ってください。火災、感電の原因となります。
- 電気工事店または当社最寄りの営業所にご相談ください。
- 器具の改造・部品の変更は行わないでください。火災・感電、また落下のおそれがあります。

### ⚠ 注 意

- ランプは器具銘板及び取扱説明書により種類、ワット、形状を確認し適合するものを使用してください。点灯しなくなったり器具の異常発熱の原因となります。
- ランプは点灯中、目の保護のため直視しないでください。
- 点灯中、消灯直後のランプや器具にさわらないでください。高温のため火傷の原因となります。
- 安全に使用するために定期的に清掃、点検をしてください。特に5年以上経過した器具は劣化を含めて入念に点検してください。
- 器具に直接殺虫剤などをかけないでください。変質、変形の原因となります。
- 器具のお手入れは、ぬるま湯・石鹸水を湿した布をよくしぼり拭いてください。シンナー、ベンジンは変質、変形の原因となります。

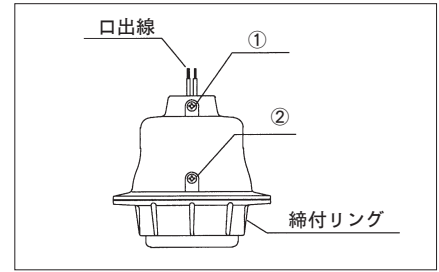
警告：誤って使用すると、使用者が重傷を負う危険があります。  
注意：誤って使用すると、使用者が傷害を受けたり物的損害の発生が想定されます。

## 1. ランプホルダの取付

①のセットネジを緩め、吊具を確実にねじ込んだ後、①のセットネジを締めつけてください。

\*チェーン吊具（F452C）は、口出線をチェーンの輪にくぐらせた後、フランジ部中央から引出してください。

不備がありますと器具落下の原因となります。



## 2. 電源線の接続

安定器二次側線（白熱電球の場合は電源線）と口出線を確実に結線してください。

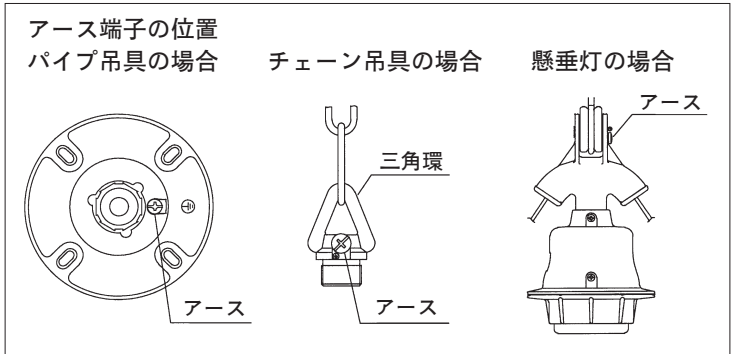
その際、自己融着テープ等により確実に絶縁処理をおこなってください。

アースネジを使用して、D種接地工事をおこなってください。

\*アース端子の位置は、器具の種類により異なりますので図を参照ください。

\*チェーン吊具（F452C）は、三角環のアース端子からアース線（別途用意）をチェーンの輪にくぐらせた後フランジ中央部から引き出してください。

接続が不完全な場合、感電・火災の原因となります。



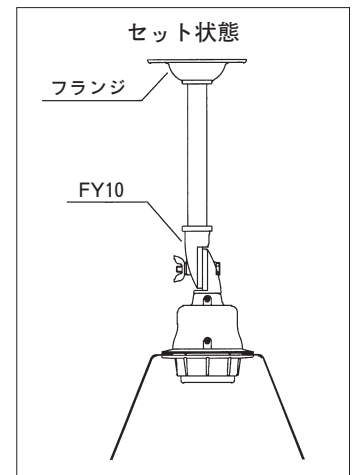
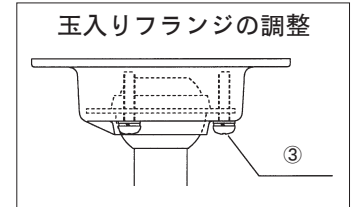
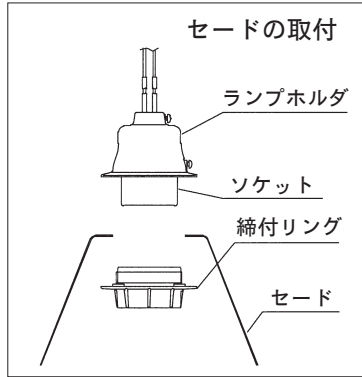
## 3. 取付方法

•フランジを堅牢な取付面に4本の取付ネジ（別途ご用意ください）で確実に固定してください。取付の際、口出線をはさまないようにご注意ください。

•玉入りフランジの調整は、③のネジを3本緩めパイプを垂直にセットした後、3本のネジを締めつけてください。

•懸垂形の場合、引掛金具を最大φ8以下の丈夫な支持物にフックしてください。

不備がありますと器具落下の原因となります。



## 4. セードの取付

②のセットネジを緩め、締付リングを外します。

セードを締付リングの間にはさみ、締付リングを確実にねじ込んだ後、②のセットネジを締めつけてください。

不備がありますとセード落下の原因となります。

## 5. ランプの取付

適合するランプをソケットに確実にねじ込んでください。

不備がありますと、火災やランプ落下の原因となります。

### 保守のための記録

工事完了後今後の施設の安全維持のため下記の「施工記録表」に記録の上、お客様にお渡しください。

#### 施工記録表

工事店名	使用ランプ
電話番号	使用安定器
取付年月	電源
器具形式	プレーカNo.
取付台数	保守作業上の注意

### 商品についてのお問合せ

お問合せの際は、器具銘板又は施工記録表の器具形式を確認の上、施工者もしくは最寄りの当社営業所までご連絡ください。

札幌営業所 011(521)3304	名古屋営業所 052(571)5500
仙台営業所 022(231)9161	近畿圏官公需営業所 06(6372)5441
新潟営業所 025(244)9288	神戸営業所 078(575)5180
さいたま営業所 048(667)4031	広島営業所 082(507)0612
東京営業所 03(3769)8800	福岡営業所 092(413)8701
首都圏官公需営業所 03(3451)6111	沖縄営業所 098(862)2144